

3 調査結果

イ) 本部

昭和47年7月から昭和50年6月まで標本船のカツオ餌料採捕報告を1.0日毎に受けた。

① 餌場別、魚種別採捕量

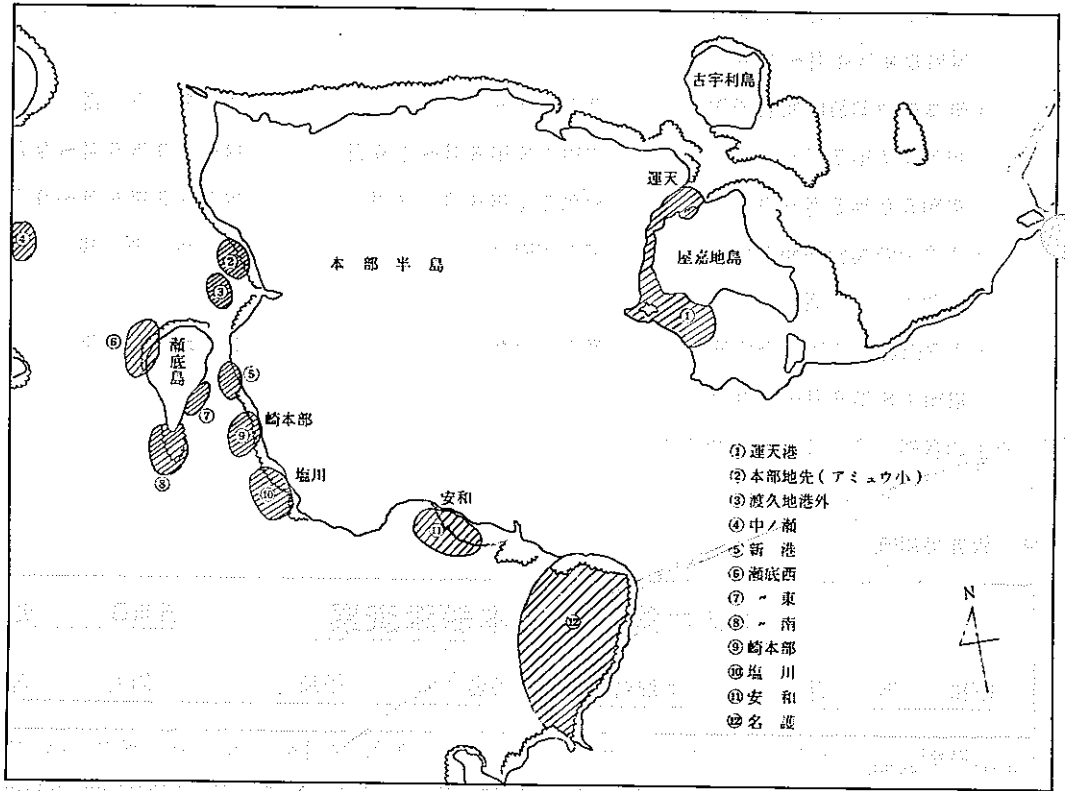


図1-4 カツオ漁業、餌場(本部)

表1-5 餌場別、魚種別採捕量(本部)

単位: kg

魚種 \ 餌場	運天港	本部地先 アミュウ小	渡久地 港外	中ノ瀬	新港	瀬底西	瀬底東	瀬底南	崎本部	塩川	安和	名護	計
コノシロ	3225	530	1250										5005
キビナゴ	170	2460	30	2035		1285		730		130	95		6935
ミナミキ ビナゴ	50	480		580		90	120	30					1350
ミズン	310	550	585		2120	720	470	870	120	2080	350		8175
インド アイノコ属	2030		830									120	2980
ミズスルル	30												30
テンジク ダイ								600		100			700
タカサゴ		600		1855									2455
計	5815	4620	2695	4470	2120	2095	590	2230	120	2310	445	120	27630

餌場別にカツオ餌料魚の採捕状況を見ると、運天港内では4ヶ年間で5,815kg採捕され、コノシロ幼魚とインドアイノコ属で運天港内で採捕された餌料魚の90%以上を占めた。本部地先では4,620kg採捕され、キビナゴが優占して出現した。渡久地港外では2,695kg採捕され、優占種はコノシロであった。中ノ瀬では4,470kg採捕され、キビナゴとタカサゴ幼魚で87%を占めた。新港ではミズンのみ2,120kg採捕された。瀬底島周辺では4,915kg採捕され、優占種はキビナゴとミズンで、この2種で80%以上を占めた。塩川地先では2,310kg採捕されミズンが優占した。

魚種別には、コノシロが5,005kg採捕され運天港、本部地先、渡久地港外のみ出現した。キビナゴは6,935kg採捕され、新港名護を除く地域に出現し、特に本部地先、中ノ瀬に多く出現した。ミナミキビナゴは1,350kg採捕され本部地先、中ノ瀬に多く出現した。ミズンは8,175kg採捕され、中ノ瀬、名護を除く地域に出現し、新港、塩川地先に多く出現した。インドアイノコ属は2,980kg採捕され、運天港に多く出現し、ミズルルは運天港のみ30kg出現した。テンジクダイ幼魚は700kg採捕され、瀬底島周辺と塩川地先に出現し、タカサゴ幼魚は2,455kg採捕され、本部地先と中ノ瀬に出現した。4ヶ年間のカツオ餌料魚の採捕状況をみると全体で27,630kg採捕され、餌場では運天港が全体の21%、魚種ではミズンが全体の22%でそれぞれ優占した。

② 月別種別採捕量 (本部)

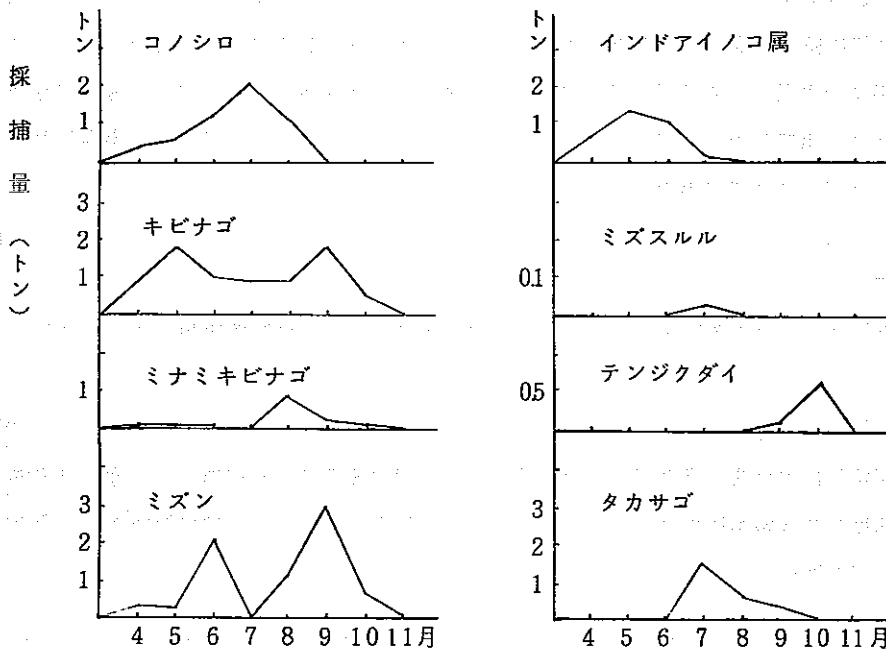


図1-5 月別、種別採捕量

コノシロは4月から8月まで出現し、モードは7月、キビナゴは4月から10月まで出現し、5月と9月にモードがみられた。ミナミキビナゴは6、7月を除く月に出現し、モードは8月、ミズンは

7月を除く月に出現し、モードは9月で6月に小さな山がみられた。インドアイノコ属は4月から7月まで出現し、モードは5月、ミズスルは7月のみ出現した。テンジクダイは9月、10月に出現し、モードは10月、タカサゴは7月から9月まで出現し、モードは7月にみられた。

③ 年別、種類別採捕量 (本部)

表1-6 年別、種類別採捕量 (本部)

単位: kg

年	魚種	コノシロ	キビナゴ	ミナミキ ビナゴ	ミズン	インドア イノコ属	ミズスル	テンジク ダイ	タカサゴ	計
47		1,600		710	4,560			700	600	8,170
48		3,405	1,044	150	1,130	945	30			6,704
49			5,867	490	2,120	50			1,855	10,382
50			125		365	1,985				2,475
計		5,005	6,935	1,350	8,175	2,980	30	700	2,455	27,630

昭和47年のカツオ餌料採捕量は8,170kg、1日当りの採捕量は102kg、ミズンが優占し、56%を占めた。48年は6,704kg採捕し、1日当りの採捕量は54kg、コノシロ幼魚が51%を占めた。49年は10,382kg採捕し、1日当りの採捕量は80kg、キビナゴが56%を占めた。50年は2,475kgを4月から36月の3ケ年で採捕し、1日当りの採捕量は48kgで、インドアイノコ属が80%を占めた。

魚種別にみると、コノシロ幼魚は昭和47年と48年に出現した。キビナゴは昭和48年以降に出現し、49年は特に多く出現した。ミナミキビナゴは47年から49年まで出現した。ミズンは47年から50年まで出現し、47年に多く出現した。インドアイノコ属は48年から50年まで出現し、50年に多く出現した。ミズスルは48年のみ、テンジクダイは47年のみ出現した。タカサゴ幼魚は47年と49年に出現した。

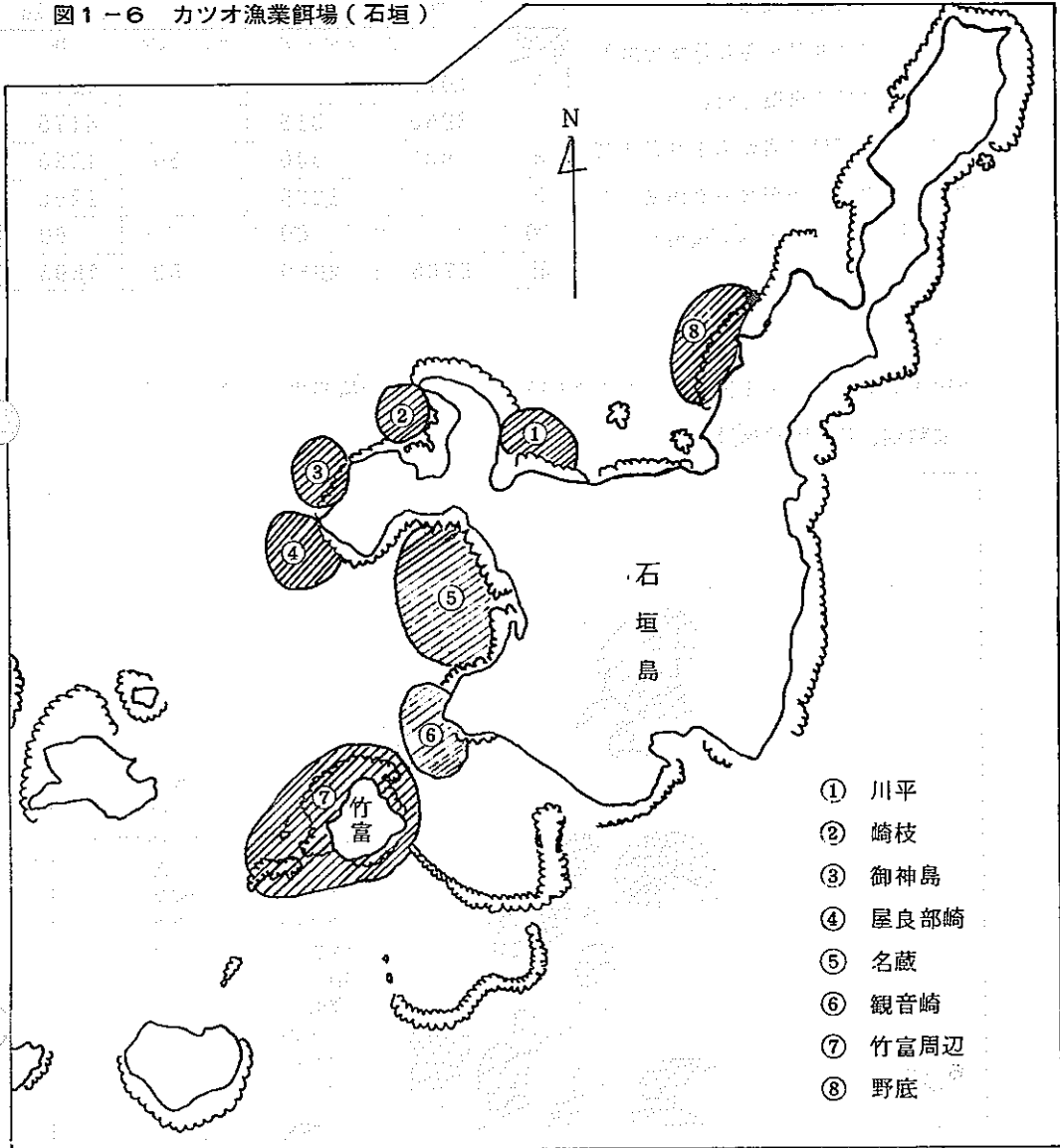
ロ) 石垣

昭和47年7月、昭和48年6月から10月まで標本船のカツオ餌料採捕報告を10日毎に受けた。

① 餌料別、魚種別採捕量

タカサゴ幼魚は川平湾、屋良部崎、観音崎、竹富周りで5,765kg採捕され、竹富周りでタカサゴ幼魚の63%が採捕された。スズメダイ類は竹富周りを除く海域で採捕され、屋良部崎で46%が採捕された。テンジクダイは名蔵のみで50kg採捕された。

図1-6 カツオ漁業餌場(石垣)



- ① 川平
- ② 崎枝
- ③ 御神島
- ④ 屋良部崎
- ⑤ 名蔵
- ⑥ 観音崎
- ⑦ 竹富周辺
- ⑧ 野底

表1-7 魚種別、餌場別採捕量

単位: kg

魚種	川	平	崎	枝	御神島	屋良部崎	名蔵	観音崎	竹富周辺	野底	計
タカサゴ	1,480					50		615	3,620		5,765
スズメダイ	225		150		30	960	40	525		150	2,080
テンジクダイ							50				50
計	1,705		150		30	1,010	90	1,140	3,620	150	7,895

② 月別、魚種別採捕量

タカサゴは6月から8月まで出現し、7月に多く出現した。

スズメダイ類は7月から10月まで出現し、9月に出現ピークがあった。

テンジクダイは8月のみ出現した。

表1-8 月別、魚種別採捕量

単位：kg

月	魚種	タカサゴ	スズメダイ	テンジクダイ	計
6		1,070			1,070
7		3,860	315		4,175
8		835	440	50	1,325
9			1,265		1,265
10			60		60
計		5,765	2,080	50	7,895

ハ) 宮古

昭和47年7月から52年9月まで標本船のカツオ餌料採捕報告を10毎に受けた。

① 餌料別、魚種別採捕量

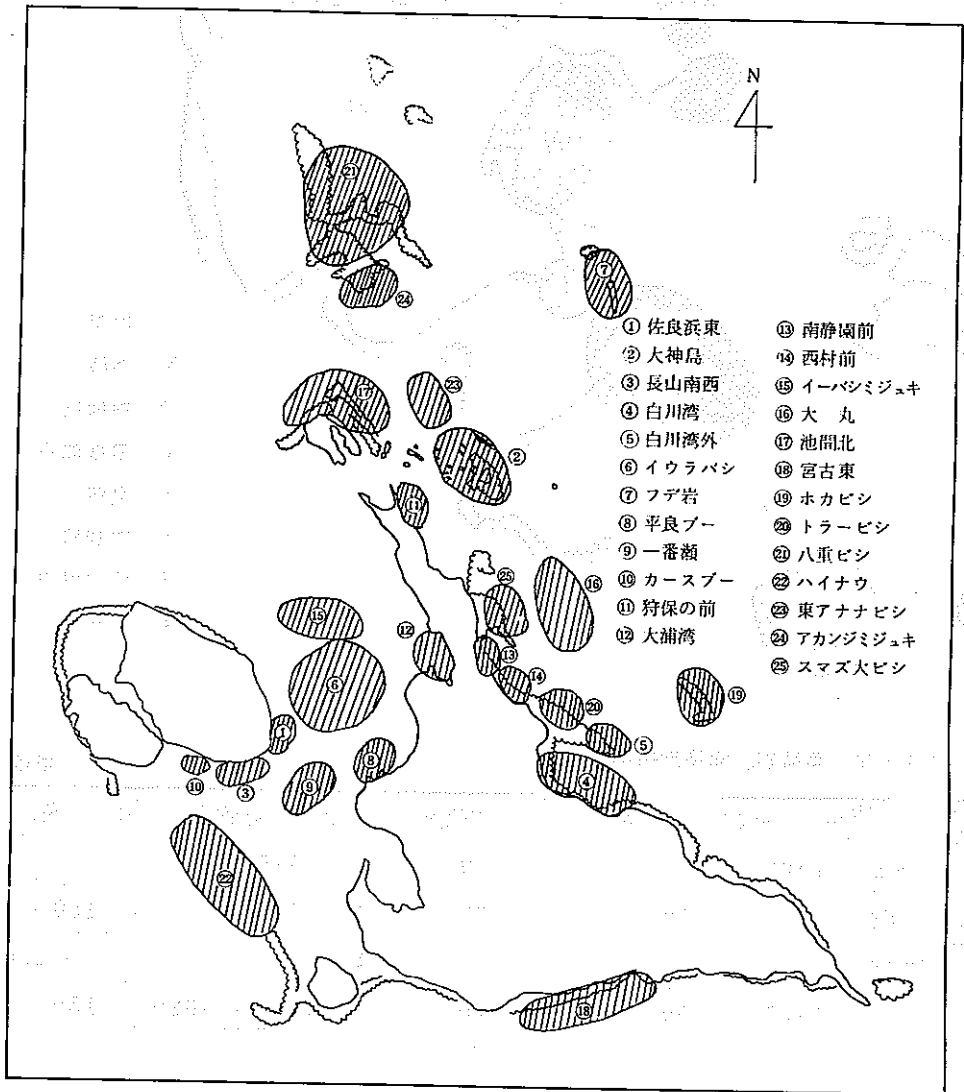


図1-7 カツオ漁業飼場(宮古)

表1-9 餌場別、魚種別採捕量

単位: kg

魚種 魚場	タカサゴ	タカサゴ	タカサゴ	タカサゴ	テンジク	テンジク	テンジク	スズメダ	スズメダ	スズメダ	スズメダ	ハカジャ	計
	タカサゴ	テンジク	スズメダ	キンメモ	テンジク	スズメダ	キンメモ	スズメダ	キンメモ	キンメモ	シーラー		
佐良浜東	2630	915	310		55								3910
大神島	6810	190	4060	180		105		875			510		12730
長山南西	700					30							730
白川湾	205	755	1690	290		1079	115	1450			450		6034
白川湾外		50	80			90							220
イラウバシ	1280	62	1875	230		340		190	2505		300		6782
フデ岩		20											20
平良ブー	1030	46		190		25							1291
いちばん瀬	410												410
カースブー						24							24
狩俣の前						35							35
大浦湾		50				15							65
南静岡前		110						290					400
西村前				550	60	125		1540		25	1290		3590
イーバシ ミジュキ	2000	450	70										2115
大丸		125											125
池間北	190		290										480
宮古東								90					90
ホカビシ								30					30
トラービシ				380									380
八重ビン			570									20	590
ハイナウ	550												550
東アナ ビシ	780												780
スマズ 大ビシ				100		120							220
計	16585	2368	8945	1920	115	4375	115	1988	2595	25	2550	2041601	

タカサゴは16,585kg採捕され、全体の40%を占め大神島、佐良浜東に多く出現した。テンジクダイは1,988kg採捕され白川湾に多く出現した。スズメダイはイラウバシと宮古東に出現し2,595kg採捕された。キンメモドキは2,550kg採捕され西村前に多く出現した。タカサゴ、テンジクダイ混じり佐良浜東、タカサゴ、スズメダイ混じりは大神島、タカサゴ、キンメモドキ混じりは西村前にそれぞれ多く出現した。テンジクダイとキンメモドキ混じりは西村前と白川湾に多く

出現した。漁場別では大神島で12,730kg、白川湾で6,034kg、イラウバシで6,782kg採捕されこの3地域で全体の61%を占めた。

② 魚種別、月別採捕量

タカサゴは6月から9月まで出現し、出現盛期は8月、タカサゴ、テンジクダイ混じりは6月から7月、9月に出現、7月に盛期があった。

タカサゴ、スズメダイ混じりは8月と9月に出現し、盛期は9月であった。タカサゴ、キンメドキ混じりは6月から8月まで出現し、盛期は7月、タカサゴ、テンジクダイ、キンメドキ混じりは7月のみ出現した。テンジクダイは5月から7月まで出現し、盛期は6月であった。テンジクダイ、スズメダイ混じりは7月

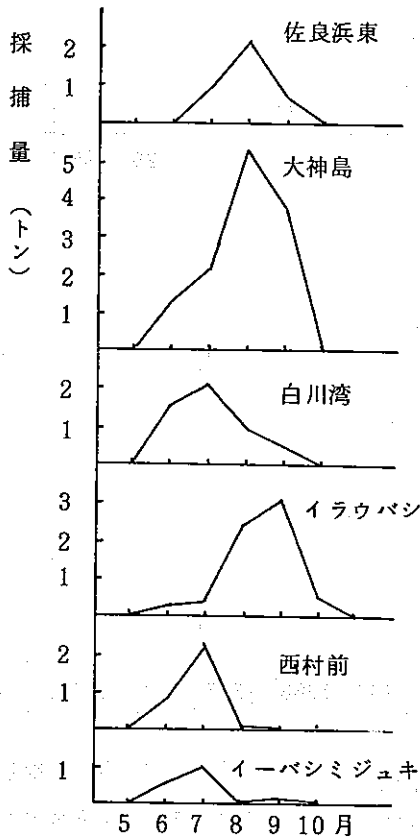


図1-9 主要餌場月別採捕量

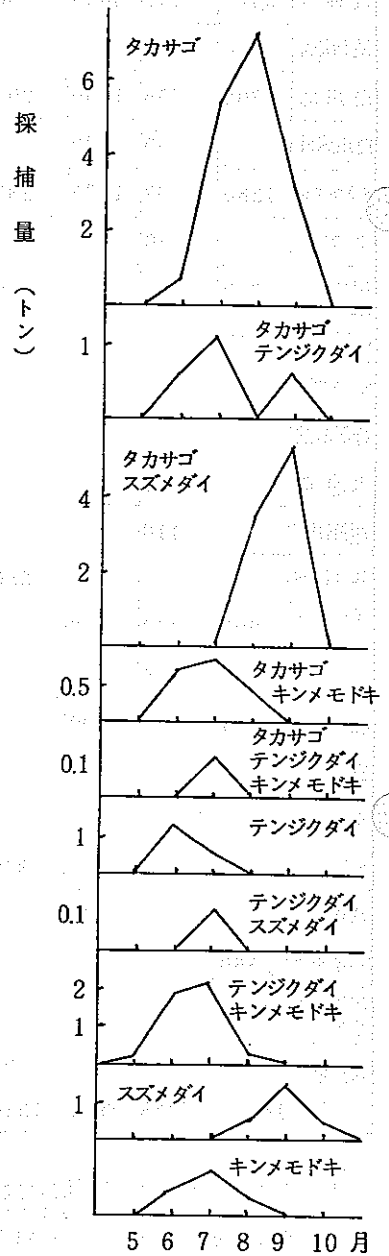


図1-8 魚種別月別採捕量